

## ◇おやつ作りと遊び活動による子育て支援

～児童学科棚橋ゼミ「たんぽぽひろば」との連携事業として～

事業担当者 桂（クリニック指導教員）、松浦（クリニックスタッフ）

### 〔目 的〕

本年度の児童学科棚橋ゼミの「たんぽぽひろば」は、栄養クリニックとの連携事業で年度内に2回実施した。本事業は、保育者に対しては「子どもの食の一つとしてのおやつ」への関心を高めること、子どもに対しては「食」への興味と味覚・食べ方の発達を促すことを目的として行った。なお、昨年度までとは実施形態を変更したが、本事業は継続の4年目である。

### 〔計 画〕

今年度は栄養クリニックを使用し、保育者に対しては、おやつ作り教室（手作りおやつとレシピ、及び食育コラム配布）を実施し、子どもには、遊び活動を行った。また、幼児に対しておやつを提供するため、安全・衛生の観点から、担当指導教員・スタッフ及び学生ボランティア（児童学科棚橋ゼミ学生）は、全て保菌検査を行った。

### 〔実 施〕

先の計画に従い、1年間で「春夏」「秋冬」の計2回実施した（表1参照）。参加された保育者に対しておやつの料理教室（次頁写真参照）を行い、食育に関わる内容を含む一口コラムを記載したレシピ（4品）を配布した。参加者の子どもの年齢は1～5歳児であった。なお、保菌検査については、実施全てにおいて全員が陰性であり、安全におやつの調理がなされた。

### 〔評 価〕

#### 1）春夏（7月27日実施）

この回は、8組の親子の参加を予定していたが、子どもの体調不良から1組キャンセルとなり、兄弟児を含む7組17名の参加となった。また、父親の参加も1名見られた。遊び活動については、子どもの安全に配慮した部屋を準備し、絵本を通して「えだまめ」に関する関心を高めるなどの活動が行われた。おやつ作りでは、普段のおやつについての様子を話しながら、調理を行った。事前に会の開催時間をお知らせしていたが、早く帰宅したいという親子がおり、会の終盤に予定変更があった。さらに、「喫食時に子どもが椅子から落ちた」「手洗いのシンク下に子どもが頭をぶつけた」などの事故があり、大事には至らなかったが、幼児の参加する行事においては、栄養クリニックの実習室内の食堂は危険であることが判明した。食事の場所については、直前の変更があったため今後はそのようなことがないようにしなければならない。

#### 2）秋冬（11月30日実施）

この回は、4組の親子の参加を予定していたが、子どもの体調不良から1組キャンセルとなり、3組6名の参加となった。遊び活動については、子どもの安全に配慮した部屋を準備し、絵本を通して「りんご」と実物の「れんこん」を用いて子どもの関心を高

めた。おやつ作りは、調理のポイントなどを話しながら、順次進めた。この回は、予定変更はなく、喫食中も子どもの事故がなく安全に行うことができた。

表1. 実施概要

実施日	調理したおやつ	配布資料のコラム内容	学生ボランティア	参加保育者（子）
7月27日	ずんだの水餃子	暑い時期の水分補給とジュース	9名	7名（10名）
11月30日	チーズ入りれんこん餅 簡単！ 焼きりんご	手作りおやつで食物繊維を！	5名	3名（3名）

[調理したおやつ及び活動の様子]



春夏：ずんだの水餃子



春夏：活動の様子（遊び活動）



秋冬：チーズ入りれんこん餅



秋冬：活動の様子（料理教室）

[ま と め]

4年間の継続事業を行ってきたが、児童学科の棚橋先生の本年度3月末のご退職に伴い、本事業は一時終了とする。最終年の今年度は、クリニックの調理実習室で保育者を対象に調理実習を行って、保育者と交流しながら子どもの食について話す機会となった。これまでの事業を以下にまとめた。③ように、親子で食べ物とのふれあいから実際の調理への参加ができるようになれば、子どもの食べ物への関心はさらに高められると考えられる。

① 2010～2012年度の取り組み

子ども：食べ物と触れ合う遊び活動→保育者とおやつを食べる

保育者：子どもが食べ物と触れ合う遊び活動を見学・参加→子どもとおやつを食べる

② 2013年度の取り組み

子ども：食べ物と触れ合う遊び活動→保育者とおやつを食べる

保育者：おやつの調理→子どもとおやつを食べる

③ 今後の発展

子ども（対象年齢を上げて）：おやつの調理→保育者とおやつを食べる

保育者：おやつの調理→子どもとおやつを食べる

（桂 博美）